

第9回狛江市基本計画策定第一分科会会議録

- 1 日 時 令和元年10月29日(火)午後7時～8時25分
- 2 場 所 狛江市防災センター3階 303会議室
- 3 出席者 委員長 福島 康仁 副委員長 上田 英司
副委員長 平谷 英明 委 員 五十嵐 夕介
委 員 猿谷 享子 委 員 柴崎 雅代
委 員 都築 完 委 員 吉田 尚子
事務局 佐々木企画調整担当主任 池田企画調整担当主任
- 4 欠席者
- 5 議 題 1. 最終調整について
 - ・ 1 人権が尊重され、市民が主役となるまち
 - ・ 2 安心して暮らせる安全なまち
 - ・ 8 持続可能な自治体経営2. その他
- 6 会議概要

議題1 最終調整について

- ・ 1 人権が尊重され、市民が主役となるまち
- －事務局より資料の説明－

委員長 まずは、「1 人権が尊重され、市民が主役となるまち」について議論していただきたい。

平谷委員 先日開催した総合基本計画審議会において、他の分科会が作成した各論も確認したところ、福祉分野において、「地域」という文言が頻出している印象を受けた。他の分野でも、市民協働や地域の役割の重要性を論じている。特定の分野だけが突出すると、順番に読んだ際に違和感を覚える。

委員長 バランス調整を事務局にお願いする。削除するか追記するかのいずれかである。

五十嵐委員 文章中では和暦と西暦を併記しているが、「関連する主な個別計画」の項目が和暦のみになっている。統一した方が良いと考える。

事務局 冊子とする際に統一させていただく。

五十嵐委員 12 ページの方向性2の2つ目だが、「市民を」ではなく、「市民と」の誤りではないか。

委員長 修正していただきたい。

柴崎委員 3 ページの「施策の現状と課題」の1つ目だが、「狛江市は、平和宣言都

市である」という記載がある。また、4つ目だが、「狛江市に住民登録のある外国人数」という記載がある。狛江市の計画であることから、わざわざ「狛江市」と記載する必要があるか。「当市」等と表現する方が適切ではないか。

委員長 記載しないと読みづらい場合もあると思うが、事務局で改めて整理していただきたい。4つ目については、「市内に住民登録のある外国人数」とした方が読みやすいと考える。

また、6ページの「施策指標」の「新規団体立上げ数」について、考え方によっては、単純に「新規に立ち上がった団体」が存在するだけで、その団体が活動しているかまでは把握できない。市民協働の推進のためには、それぞれの団体が活動しやすい環境が整っていることが重要であり、「新規団体立上げ数」という指標では少し弱い印象を受けた。

事務局 この指標については、市民協働の裾野が拡大したことを測るための指標として設定を検討した。検討においては、市民活動支援センターへの団体登録の届出数を指標にしてはどうかという議論もあった。しかし、この指標では、以前から活動していた団体がその年度にたまたま届出をただけという可能性もある。そこで、市民活動支援センターが団体の立上げに対する相談・支援機能を発揮し、実際に団体が立ち上がった数を指標とすることとした。

委員長 考え方を述べただけで修正をお願いするものではない。施策の進捗を完全に捉える指標の設定は困難である。

指標の考え方としてもう1点、「市民協働事業件数」だが、これは提案型による市民協働事業の件数のみか。それとも、共催事業や財政的な支援をしている事業も含むものか。

事務局 後者である。

委員長 市民協働事業件数が増えていくことが必ずしも良い方向性というわけではないことは理解した上で指標としていただきたい。市民協働とは、地域課題を解決するために市民と協働して取り組むという手段である。この手段が目的になってはいけない。要するに、市民協働で実施すべき事業なのか、行政が主導で実施すべき事業なのかをきちんと検討した上で判断する必要がある。この指標を達成することを目的に、何でもかんでも市民協働事業として実施することは適切ではない。

都築委員 質や中身も伴って、件数が増えていくことが望ましい。

上田委員 いわゆるアウトカム指標であると考えられる市民アンケートを実施する指標と、委員長が指摘されたアウトプット指標が混在しているが、どのような議論があったか。

事務局 市の施策によって、どれだけ市民の行動や気持ちが変容したかを捉えたア

アウトカム指標が重要であることは認識している。一方で、アウトカム指標は市民アンケートを要するものであるが、現在市民アンケートの回収率が芳しくないという課題がある。原因の一つとして、市民アンケートの設問が増加し、協力いただく市民の負担感が増していることが考えられる。一定程度の回収率が担保されない場合、市民アンケートで把握した数値に対する信頼性が統計上失われてしまう。指標の検討の途中では、アウトカム指標はもう少し多かったが、本当に市民に質問する必要があるかどうか、市で把握しているデータで代替できるものはないかを精査し、ポイントを絞って指標として設定した。

上田委員 「新規団体立上げ数」だが、市の指定管理団体ではあるものの、市とは異なる市民活動支援センターに対する指標である。これ以外の指標についても同様だが、市以外の具体的な機関や団体が明記されている指標については、その機関や団体と調整した上で目標値を設定していただきたい。

委員 長 可能な限り調整していただければと思う。

猿谷委員 10 ページの「施策指標」の「SNS を通じた市政情報発信に対する共感数」について、指標として適切か疑問である。共感数だが、恐らく「いいね！」の数を集計するつもりだと思うが、例えば、花火大会の開催に関する情報発信に対して共感できた際は「いいね！」をするが、災害情報に関する情報発信に対しては「いいね！」をしないと思う。市政情報の共有という視点で考えると、後者の方が寄与しているとも考えられる。

上田委員 同感である。本指標は削除し、「必要とする市政情報をいつでも得ることができていると感じる市民の割合」の指標のみで十分と考える。

事務局 本日の資料では、「SNS を通じた市政情報発信に対する共感数」を指標として記載しているが、そもそも技術的に集計が困難であるということが判明したことから、指標として設定できないのではないかという議論を庁内で行っている。本日の議論も踏まえて整理させていただきたい。

委員 長 庁内で議論する際、本日の議論についても意見として付与していただければと思う。

猿谷委員 「この情報は役に立ちましたか」といった質問がホームページ上にあり、クリックして答えられる仕様になっているものもあるが、この割合を捉える方が適切な指標ではないか。

都築委員 狛江市のホームページは対応しているか。

事務局 対応していない。今後こうした対応が必要かどうかの議論は別として、指標として設定する場合、その進捗を測る目的から、現状値を把握できるものでなくてはならず、現状値が把握できない本提案を指標とすることはできない。

委員 長 「必要とする市政情報をいつでも得ることができていると感じる市民の割合」の指標のみで十分と考えるが、事務局で再度整理をお願いする。

・ 2 安心して暮らせる安全なまち

－事務局より資料の説明－

委員 長 次に、「2 安心して暮らせる安全なまち」について議論していただきたい。

平谷委員 交通安全や感染症対策、アライグマ等の野生生物への脅威は論じる必要はないか。最近だと、札幌で熊が出没したり、ヒアリが国内で確認されたりした事例もある。関係機関との連携を通じて、より適切な情報を市民に提供するといった旨の文言が必要ではないかと考える。

また、台風第19号について、「施策の現状と課題」に新たに記載されているが、今回避難所の確保が大きな課題であることが判明した。避難者の数に対し、避難所の受入れ定員数が不足している。協定を締結し、広域連携や民間の施設を貸してもらおう等の取組を進めていく必要があると考える。

柴崎委員 交通安全や感染症対策、アライグマ等の野生生物への脅威は、他の分科会で議論するというものではなかったか。

事務局 そのとおりである。都市整備分野や福祉保健分野、環境分野で議論している。

平谷委員 施策の方向性の表題としては、「多種多様な生きものとの共生」と記載されている。

柴崎委員 その方向性では弱いのではないか。人の身に危険が及ぶ可能性のあるものを排除する対応や、その危険に関する情報を提供することで、安心・安全に暮らせるというストーリーではないか。

事務局 基本構想策定時も同様の議論があったが、「2 安心して暮らせる安全なまち」については、防災と防犯のみを論じると整理した。災害への備えと犯罪への備え以外は、別の施策で論じなくては基本構想と整合がとれなくなる。

委員 長 基本構想と同様の整理で問題ない。

また、指標に関する確認ばかりで申し訳ないが、6ページの「施策指標」についてである。まず、「狛江市が治安の良いまちだと感じる市民の割合」は、安全なまちであることが市民の安心感にもつながるという「体感治安」を捉えたものであり、とても良い指標であると思う。次に、「市内刑法犯認知件数のうち、窃盗犯・粗暴犯・その他の合計件数」と「特殊詐欺被害件数」だが、特殊詐欺被害をあえて別にした点は、施策の方向性とも整合がとれている。最後に確認だが、「市内刑法犯認知件数のうち、窃盗犯・粗暴

犯・その他の合計件数」とは、機会犯罪のみを捉えているという理解で良いか。

事務局 そのとおりである。

五十嵐委員 自助・共助・公助に加え、「近助」という言葉が最近広まっている。自助よりもやや広めの助け合いという意味合いである。新しい言葉であるが、狛江市ではどのように捉えているか。

事務局 現在の防災に関する計画上は使用していないが、防災の部署とは一度確認させていただきたい。

猿谷委員 「小・中学生のアイデア」だが、基本計画上に盛り込むという理解で良いか。

事務局 盛り込む予定である。昨年度、市内の小学校5年生と中学校2年生に対して実施した小・中学生アンケートから、施策を進める上でのアイデアとして、子どもの柔軟な発想によるアイデアを記載している。

委員長 「小・中学生のアイデア」に対する説明文を基本計画上のどこかで記載する必要があると考えるがいかがか。

事務局 「各施策の見方」というページを設け、説明文を記載している。

・ 8 持続可能な自治体経営

－事務局より資料の説明－

委員長 最後に、「8 持続可能な自治体経営」について議論していただきたい。

平谷委員 前回も発言したため、結論は一緒であると考えているが、「人財」は市の職員を指し、それ以外は「人材」とする整理は問題ないか。まちづくりの主体は市民である。市の職員も一生懸命従事していると感じるが、それは仕事であり、宝のような「財」という表現に違和感を覚える。地方自治の専門家としての委員長の見解も伺いたい。

委員長 荒川区は地域の人財としているようであるが、ここは狛江市がどう考えているかどうかである。以前の事務局の説明では、「人財育成基本方針」という職員への方針も市で作成しているようである。このままで良いのではないか。

平谷委員 8ページの方向性1について、これも前回発言したが、「連結負債残高の維持」という表現は、財政課が検討した上での表現と理解しているが、「維持」という表現は消極的な印象を受ける。「削減」というニュアンスで記載することは難しいか。

委員長 財政課と調整済みであれば、事務局より説明願いたい。

事務局 消極的な印象を受けるということであるが、中期財政計画において明記し

ている内容であり、この表現としたところである。また、消極的な姿勢から「維持」という表現にしているわけではない。例えば施設を建設する際、財源に余裕があっても市債を発行する理由の一つとして、負担の公平性が挙げられる。単年度予算で建設した場合、考え方として、その年度の納税者の税負担で賄うことになるが、施設を享受できる市民はその年度の納税者だけではない。そこで、市債を発行することで、将来の納税者にも負担をお願いすることで負担の公平性を保つという考え方もある。また、歳出の平準化という考え方もある。

委員 長 市民委員の皆さんはどのように考えるか。

猿谷委員 維持するメリットはあるか。

平谷委員 交付税措置を受けられるという点はある。

柴崎委員 単純に、負債は減らしていくべきものではないか。

都築委員 「施策の現状と課題」の2点目に記載があるように、財政状況が改善しているとのことであり、この歩みを維持していくことが今後の方向性であると捉えている。

柴崎委員 単年度の計画であれば「維持」が良いと思うが、5年間の計画であれば、もう少し踏み込んだ表現でも良いかもしれない。

委員 長 財政課との協議を経てこの表現となっていること、また中期財政計画にも明記されていることから、表現の修正をお願いするものではないが、改めて確認願いたい。議論することに意義があると思う。

また、2ページの「施策指標」の「内部評価達成率」について、内部評価を実施すること自体は大切であるが、質の高い行政運営が行われているか否かを判断するのは市民であるべきである。行政が「質が高くなった」と考えていても、市民が感じることができなくては意味がない。この指標こそ、市民アンケートを行うべき指標であると思う。再考いただければと思う。

吉田委員 現在の市民アンケートは郵送で回答していると思うが、将来的にはインターネット上で回答できると良いと思う。通勤等の空き時間にスマホで回答できれば便利であり、回収率も上がると思う。

事務局 他自治体において、ネット上で回答できる形式で市民アンケートを実施している事例があり、研究していきたいと思う。

猿谷委員 アンケート集計も紙ベースより楽になると思う。

委員 長 これからの時代を捉えた良い提案であると思う。

猿谷委員 利便性の向上のためにネットでの回答手段も用意するが、郵送という回答手段も残しておくべきであると思う。

議題2 その他

委員長 本日を含め、全9回の会議を重ねてきた。最後に一人一言ずつ感想をいただければと思う。

平谷委員 多くの質問や意見をさせていただいた。うるさく思われた方もいるかもしれないが、より良い基本計画にしたいという想いで発言したところであり、理解いただければ幸いである。会議の中で、若い皆さんと意見を交わすことができ、非常に参考になった。感謝申し上げます。

五十嵐委員 「基本計画とは何か」というところからスタートして、こうした計画ができるまでの過程には大変な苦労があることが理解できた。会議の開催時間についてだが、夜間の時間を設定していただいたことで、仕事終わりに参加することができた。この会議に限らず、市民参加を推進していくためにも、現役世代が参加できる時間帯に開催することが望ましいと考える。

今回、基本計画の策定のプロセスに関わることで、より狛江を身近に感じることができ、市政に興味を持つことができた。また、様々な価値観を共有でき、自身自身の成長にもつながったと思っている。皆さんに大変感謝している。

猿谷委員 基本計画の策定に当たって、様々なプロセスを経ていることが分かった。

その過程で、市役所がどのような業務を行っているかを知ることができた。

また、皆さんと議論する中で、色々な考え方があることを知ることができた。大変有意義であり、感謝申し上げます。

柴崎委員 5月から皆さんと会議を重ね、議論を深めることができ、とても勉強になった。感謝申し上げます。基本計画の策定に当たっては、多くの人動き、多くの意見が取り入れられ、多くの時間が費やされていることが分かった。

また、「2 安心して暮らせる安全なまち」でも触れている台風第19号について、今回浮き彫りとなった課題に向き合い、今後の災害対応に活かしていただければと思う。

都築委員 まずは皆さんに感謝申し上げます。私は前回の総合基本計画の策定にも携わらせていただいたが、計画は策定してからが大切である。基本計画に記載された内容が実行されているかどうか見守っていきたいと思う。改めて感謝申し上げます。

吉田委員 狛江市がどのようなことに取り組み、どういう方向に進もうとしているかを知ることができ、大変勉強になった。自分自身も狛江市について考える機会になった。

また、基本計画の策定に当たってはディテールにまで注意を払い、多くの市民参加が行われていることが分かった。感謝申し上げます。

上田委員 まずは皆さんに感謝申し上げます。今後実施するパブリックコメントにおい

て、どのような意見が寄せられるのか注視したい。

また、基本計画から取り残されている人がいないかどうか、意識しなくてはならない。施策指標の一つである「狛江市は性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、人権が尊重されていると思う市民の割合」について、その推移に非常に興味がある。改めて感謝申し上げる。

委員 長 この第一分科会だが、非常に建設的な議論ができたと考えている。皆さんも基本計画の策定に自分自身の意見や考えが反映され、策定のプロセスに関与できたと感じていると思う。こうした市民参加が今後も広がっていくことを期待している。

本日の大学の授業のテーマが、「シビックプライドはどうすれば高まるか」というものであった。いくつか論点はあるが、その一つとして、市民参加の意識が高いほど、シビックプライドが高まっていくだろうと考えられている。皆さんのように、基本計画の策定に関わることができて良かったというような市民が増えることで、シビックプライドも高まり、更なる市民参加・市民協働にも発展していくと思う。

また、事務局が積極的に会議の意見を基本計画に反映させてくれた。別の自治体の会議にも参加することがあるが、自治体によっては、事務局が原案に固執し、あまり意見が取り入れられないことがある。事務局の対応や皆さんの議論を見ていると、今後狛江市がより一層発展していく未来を感じることができた。

最後に、市民委員の皆さんには、日頃狛江市に住んでいる中で感じていることをどんどん会議で発言していただき、私自身も非常に勉強になった。皆さんと多くの議論を交わすことができたことを感謝申し上げます。

事務局 全9回の会議に対し、お忙しい中参加いただき、また長時間の議論をいただき感謝申し上げます。皆さんに積極的に議論いただいたことで、中身が濃く、市民目線を十分に反映した基本計画を策定できると考えている。

今後の予定だが、12月15日から年明け1月14日までパブリックコメントを行い、期間中に市民説明会を2回開催する予定である。その後、寄せられた意見の取扱いを審議会で議論し、基本計画の決定は2月末を予定しており、最終的に冊子としてまとまるのは3月末になる予定である。分科会としての議論は本日で終了となるが、今後の基本計画の策定を見守っていただければと思う。改めて感謝申し上げます。

委員 長 その他特に意見等なければ、第9回狛江市基本計画策定第一分科会を終了とする。